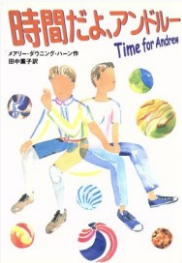


紙版 ハコブネ×ブックス vol. 49

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



時間だよ、アンドルー

Time for Andrew.

作者 メアリー・ダウニング
・ハーン
翻訳者 田中薫子
出版社 徳間書店
発行 2000年4月
ISBN 978-4198611750

review



アンドルーと入れ替わってしました。大人しく真面目な少年アンドルーは、男の子が乱暴であることが当たり前で、悪ガキ、アンドルーとしてどう振る舞ったのか。やがてアンドルーはライバルとして自分の曾祖父とも張り合うことになります。

カンヴァスの向こう側 少女が見た素顔の画家たち

LYDIA'S SECRET.

作者 フィン・セッテホルム
翻訳者 枇谷玲子
出版社 評論社
発行 2013年10月
ISBN 978-4566024199

review



ストックホルムに暮らす絵を描くことが好きな少女リディアは、ある日、公園で不思議な少年と出合い、葉を託されます。何の葉かわからないまま、後日、リディアは国立美術館を訪ねた際に、レンブラントの絵画『キッテン・メイド』に惹き寄せられ、つい手を伸ばして絵に触れてしまします。たちまち世界が暗転し、リディアは見知らぬ世界にいました。そこは一六五八年のオランダのアムステルダム。戸惑うリディアに声をかけてくれた老人はレンブラントその人で、少年からもらった葉の効能で言葉が通じるリディアは、この時代に馴染んでいきますが、考え方の違いに驚かされることもあります。トランプに遭遇したりリディアはここでもまた有名な絵画に触れて、描かれた時代へと廻ります。絵画を伝って過去へ過去へと運ばれていくリディアは現代に戻れるのでしょうか。

メラレン湖のほとりに住む現代の少女カールは、森に隠れて暮らす少女レベッカと出逢います。ここが第二次世界大戦下で、ユダヤ人であるレベッカが追われていることを知ったカールは、強い決意のもとレベッカを救うために行動します。タイムトラベラーの子どもの成長を描く物語はこちらから。

特集
タイムトラベラー
の責任と自覚



紙版「ハコブネ×ブックス」vol.49

2025年10月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



レベッカの目上上げた空
(マッシュ・フォックス)
静山社 2024年



お問合せは
こちらから。

タイムトラベラーの責任と自覚

未来からきたタイムトラベラーだからといって、過去に起きた戦争や災害を未然に防ぐことは容易ではありません。ましてや未知の世界に迷いこんだ非力な子どもに何ができるのか。もっとも児童文学系タイムトラベラーはSF系のように歴史改変によるパラドックスを引き起こすことはありません。変わっていくのは、過去の世界で貴重な体験をして、自分を成長させたタイムトラベラー自身です。二十世紀初頭に書かれたタイムトラベル児童文学の元祖『アーデン城の宝物』から現代の作品に至るまで、その系譜は続いています。自分自身はどんなに改変してもかまわないのです。



アーデン城の宝物
E・ネスビット
東京創元社 2014年6月

時の旅人

a traveller in time.

作者 アリスン・アトリー
翻訳者 小野章
出版社 評論社
発行 1980年12月
ISBN 978-4566012073

review



ロンドンから転地療養で田舎の村サッカーズに滞在することになった現代の少女ベネロビー。身を寄せた親族の家は、かつて貴族が所有していた古いお屋敷でした。歴史あるペネロビーは時折、現在と過去の風景がシンクロして見えるようになり、やがて、長い時間、過去の世界に入りこめるようになります。そこは十六世紀末のサッカーズの青年貴族バビントンの領地でした。バビントン家の女中頭であった遠い祖先のおかげで、お屋敷の人たちの知遇を得たベネロビー。しかし、彼女は、三年後に起きるバビントン事件で、高潔で純粋なこのお屋敷の人たちが悲劇的な運命を迎える歴史を知っていました。謀反の罪で死刑になるバビントンの暴走を止められるのか。破壊の時に向かって進む過去の世界でベネロビーの気持ちは錯綜します。

影の王

King of shadows.

作者 スーザン・クーバー
翻訳者 井辻朱美
出版社 偕成社
発行 2002年3月
ISBN 978-4036315109

review



四百年前に建てられた劇場、グローブ座の再建を記念して、当時の演出でシェイクスピア作品の上演が行われることになりました。アメリカの少年、ナットもこの企画のために集められた少年俳優の一人です。稽古を重ねていたナットは、ある晩、不意に体調を崩します。高熱を発したナットが病を抜けて目を覚ますと、そこは四百年前のエリザベス朝のロンドン。ナットは、できたばかりのグローブ座で上演される『真夏の夜の夢』のバック役を演じる少年俳優と入れ替わっていました。現代で同じ役を務めるはずだったナットはセリフを覚えており、アクロバットな動きで周囲を驚かせる活躍を見せます。なにより、飲めば、座付き作家兼俳優としてシェイクスピア当人がここにいて、ナットを指導してくれることでした。現代で両親を失い、悲しみに心を塞がれていた少年の心の解放と成長が描かれていきます。